

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・タブレットドリルやドリルパーク、計算ドリルなどを活用し、反復練習をしたことで、基礎的な計算力が高まっている。
- ・自分の考えを絵や図、言葉などを用いてノートに説明できる児童が増えた。
- ・デジタル教科書や学びポケットなど、ICTを積極的に活用したことで、主体的に取り組む児童が増えた。
- ・具体物や半具体物を操作する活動を取り入れたことで、意欲をもって問題解決に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・数直線や図を使って立式する児童は増えてきてはいるが、文章問題の意味を理解して数直線や図に表すことのできる児童が少ないため、文章を正確に読み取る力を高める必要がある。
- ・意欲的に問題に取り組む児童は多いが、発展問題や日常生活で活用する力が低いため、既習事項の掲示や日常生活に関連付けた問題を扱うことで、活用し思考する力を高める必要がある。
- ・図形や表、グラフの算数用語の定着ができていない児童が多いため、定期的に復習に取り組ませる必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	・わり算や小数、分数の正答率が目標値を下回っているが、図形やデータの活用の校内平均正答率は目標値を大きく上回っている。		
第5学年	・角の大きさ、面積、簡単な場合についての割合の校内平均正答率が低く、基礎の校内平均正答率は目標値を下回っている。全体として、校内平均正答率は目標値より低い。 ・データの活用や変化と関係については、目標値を上回っている。	・大きい数・小数・分数や時こくと時間は、目標値を上回っている。 ・わり算や□を使った式は、目標値を下回っている。また、「思考・判断・表現」は目標値を下回っている。	
第6学年	・特に割合、小数の計算、分数の計算の校内平均正答率が目標値を大きく下回っている。 ・小数の計算問題以外は大きく目標値を下回っているものが多く、特に活用が苦手という結果となっている。	・面積や角の大きさに関する問題は、目標値を上回っているものが多い。 ・分数やわり算に関する問題は、目標値を下回っているものが多い。	・四則演算は、目標値に近いものや上回っているものが多い。 ・図形や長さ・重さは、目標値を下回っているものが多い。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・それぞれの学習の基礎的な理解はほぼできている。 ・問題で用語や単位の意味が曖昧になっている児童がいる。 ・正確に計算することに課題がある児童が多い。	・数の大きさ、小数の仕組みについて説明できる。 ・式から、立式した理由を説明することに課題がある。 ・文章問題を正しく捉えて、数式で表すことに課題がある。	・全体を見て意欲的に学習に取り組む児童が多く、基礎的な理解はできている。 ・丁寧に取組んだり、習熟したりすることが不足し、計算途中の細かな間違いが多い。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・小数、分数の数のきまりを理解している。 ・図形の基礎的なきまりを理解している。 ・わり算や分数の計算に課題がある。 ・割合の計算に課題がある。	・表から数量の関係を立式することができている。 ・角、割合について説明することに課題がある。 ・与えられた情報から、問題の指示に従って説明したり答えを導いたりすることに課題がある。	・問題に取り組み、解答を導き出そうとする意欲が高い。 ・問題文を丁寧に読み込み、既習の考え方をを用いて指示通りに解答する力を高めていく必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・児童の定着度を確実にするために、計算問題を反復し、習熟させる。 ・児童の理解度を把握して、朝学習や金曜補習を活用し練習問題に取り組むことで計算力の定着を図る。	・具体物や半具体物を使った操作的活動や、図やテープ図で表現させる活動を行う。 ・ICTを活用し、視覚的に捉える活動を行う。 ・児童が説明する活動を取り入れ、学習した内容を表現させることで考えを深める。	・生活に身近なものや事象を題材に取り上げて、児童自身が考えてみたいと思える問題や課題を設定する。 ・実物を活用し、実際に動かしたり体感したりできるような活動を取り入れることで、学習への意欲を高める。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・児童の理解度を把握して、朝学習や金曜補習を活用し練習問題に取り組みさせることで計算力の定着を図る。 ・長さや重さなどについての量感を養う。 ・算数の用語を授業で確実に押さえ、理解できるようにする。	・自分の考えを絵や図と共に言葉で伝える力を付ける。また、考えを友達と交流する学習活動を用いて、自分の考えを説明できるようにする。	・児童自身が考えてみたいと思える問題や課題を設定する。 ・ICT機器などを積極的に活用する。 ・振り返りを記入させ、自分のできたところと課題を自覚できるようにする。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・児童の理解度を把握して、朝学習や金曜補習を活用し、練習問題に取り組みさせることで計算力の定着を図る。 ・算数の用語を授業で確実に押さえ、理解できるようにさせる。 ・数量の関係を正しく捉えられるよう、既習事項を使用することを促し、図や数直線を授業で日常的に使えるようにする。	・考えを友達と交流する学習活動を用いて、自分の考えを絵や図と共に言葉で伝える力を付けたり、自分の考えを説明したりできるようにする。 ・式から問題文を作ったり、友達の作った式の意味を考えさせたりする学習活動を取り入れる。	・児童自身が考えてみたいと思える問題や課題を設定する。 ・ICT機器などを積極的に活用する。 ・振り返りを記入させ、自分のできたところと課題を自覚できるようにする。